

たより



平成26年度学びのグレードアップ総合推進事業

平成26年度学びのグレードアップ総合推進事業（研究所版）は、北浜中学校、明野幼稚園、厚生小学校、倉田山中学校に研究委託を受けていただいています。

公開授業（保育）及び研究報告を、以下のとおり開催しますので、多数ご参加ください。お申し込み・お問い合わせは、伊勢市教育研究所までお願いします。

外国語教育に係る研究

北浜中学校英語公開授業

（授業者：濱口美知子 研究所研修員）

【研究主題】

仲間とともに楽しく英語で話せる生徒の育成をめざして

～授業の中にペア活動を取り入れて～

◆日時：平成26年11月11日（火）

公開授業 13:50～14:40

研究協議 15:00～16:30

閉会行事 16:30～16:40

◆場所：北浜中学校

2年B組教室及び図書室

幼稚園教育に係る実践研究

明野幼稚園公開保育研究会

【研究主題】

生きる力を培う学び、

学び合いの連続性を考える

～学校教育としての幼児教育～

（3・4・5歳児 公開保育）

◆日時：平成26年11月18日（火）

公開保育 13:00～14:00

全体会 14:20～15:20

分科会 15:20～16:10

分科会報告 16:10～17:00

◆場所：明野幼稚園

歴史教材活用に係る実践研究

厚生小学校6年公開授業

「ふるさと 伊勢」を活用した授業

（授業者：垣澤泉 教諭）

◆授業：総合的な学習の時間

単元 「伊勢の町再発見！

～大切にしたい 自分らの町～

◆日時：平成26年11月28日（金）

公開授業 13:50～14:35

研究協議 15:00～16:00

助言・講義 16:00～16:30

閉会行事 16:30～16:40

◆場所：厚生小学校

子どもの自立を支援するネットワーク体制に係る研究

NEST 研修員による報告

※第3回不登校問題分析委員会を

兼ねての開催

（報告者：足代泰弘 研究所研修員

（研究協力：倉田山中学校）

◆日時：平成27年2月12日（木）

15:00～16:40

◆場所：伊勢市小俣総合支所大研修室

授業づくり：体育

講演・実技 「体育における協同的な学び」

8月8日(金)、高田短期大学の柳瀬先生をお迎えして、体育の授業づくりの研修講座を開催しました。幼稚園・保育園(所)・小学校の先生約30名に参加していただきました。

柳瀬先生が、「子どもの体について気になることがありますか」と問われると、気になる子どもについて「姿勢が悪くてじっとしてられない子」「すぐ疲れたと言う子」「バランスが悪くて片足立ちができない子」「筋力が弱くて『うんてい』にぶら下がれない子」「よく転ぶ子」「運動の機会の少ない子」「運動することへの意欲の低い子」・・・など日ごろ感じている様子について次々と語られました。

また、「友だちの体にふれることに抵抗のある子がいて驚く」と話す低学年担任の先生もみえました。他者と関わる力は数値で測れませんが、どの教科においても他者との関わりの中で力を育むことは大切なことです。この講座では柳瀬先生に「体育における協同的な学び」、「体育における対話的学び」について話していただきました。そして表現運動を例にした授業デザインを、実技指導を入れながら具体的に教えていただきました。



音楽に合わせて♪

体ほぐしの運動では、リズムに合わせて隣の人の肩をたたいたり、ひざを打ったりするうちに、自然に体も心もほぐれていくことを実感しました。

また、リズムダンスの実技では、ヒップホップやサンバのリズムを取り入れた軽快な動きを体験しました。

肩をもみもみ♪

頭をもみもみ♪



- ◆歌や音楽に合わせて「遊び」から入ろう。
- ◆リズムにのるのは、おへそから。ヒップホップの基本は「胸がダウン! アップ!」を繰り返すことが基本。



リズム運動の「中心のおもしろさ」は、
リズムにのること＝リズムに合わせること
×リズムをくずすこと（変化させること）

表現運動の「中心のおもしろさ」は、
なりきること＝動きを真似すること
×動きを崩すこと（変化させること）



体育で大事なことは、子どもたちが、今やっていることの意味をしっかりと理解して取り組むということです。何のためにこの動作をしているのかということを理解できれば、子どもたちは、その活動に意味を見出し、大事な運動をしていることが実感できるでしょう。

体育は仲間作りを目的として行うものではありませんが、
体育の活動を行った結果「他者とかかわる力」や「状況を察する力」がついていきます。

参加者アンケートから

- ◆早速取り入れられる内容ばかりで、とても参考になりました。今回教えていただいた内容はどれも自分が目指している「子どもが関わり合う体育」の授業づくりに役立つものでした。自分なりに吸収して授業のネタにしたいと思います。
- ◆子どもどうしが関わりを深め合う内容を仕組んで、どんどん関わらせていくことが大切だと思いました。美しい先生の姿にみとれながら、素敵な時間を過ごさせていただきました。
- ◆協同的な学びのある体育を初心にかえて、自分も楽しんで創っていきたいです。
- ◆リズムに合わせる「体操」と崩す「ダンス」の違いに気づかされました。
- ◆先生の楽しい雰囲気に参加者の気持ちもほぐれて、最後のサンバではみんな思い思いに踊りちぎっていたと思います。知識も得られて体も動かして心もほぐされて・・・と本当に素晴らしい研修でした。
- ◆体を動かす楽しさを味わうことで、心がほぐれ、笑顔になることを実感しました。体を動かす楽しさを子どもたち知らせていけるようにしたい。

満足度 100%の充実した講座になりました。



不登校対策ハーモニーハート総合推進事業



第2回不登校問題分析委員会

平成26年11月20日(木)



本年度、各校の先生方と教育支援センター「NEST」による「不登校問題分析委員会」を立ち上げました。9年間を通して子どもたちの成長を見守り、不登校問題の未然防止と解消に取り組んでいきます。年3回開催し、各校の取り組みの交流や情報交換などを行います。

第1回目は、NPO 法人フリースクール三重シューレ代表の石山佳秀先生をお招きして、「不登校と子ども・保護者への対応～自己肯定感と多様な育ちから考える～」という演題で講演もしていただきました。

第2回目の不登校問題分析委員会は、11月20日(木)、午後3時から伊勢市小俣総合支所(大研修室)で開催します。各校の分析委員の先生方から、不登校に対する取り組みの報告、交流をしていただきます。助言者として次の先生方をお願いしました。

三重県教育委員会 臨床心理士

高山 敬子先生

西嶋 雅樹先生

松本 琢磨先生

スマイルいせ 臨床心理士

前川 知奈美先生

中瀬 由紀子先生

長瀬 真先生



教育支援センター「NEST」の活動について

「NEST」とは、「巣」「居心地の良い場所」「ひと休みの場所」という意味です。通級してくる子どもたちが心を休め、学校へ復帰するためのエネルギーをためていけるようにとの願いをこめています。

- ◎子どもたちの自主的な活動を大切に、自立の力を養います。
- ◎学校復帰に向けて個に応じた支援をします。
- ◎保護者の方や先生方と連携し、子どもたちを支援します。

【具体的な取り組み】

- ◆ 一人ひとりの課題に合わせた学習
- ◆ 子どもたちの興味関心に応じた活動(軽スポーツ 手芸 ゲーム等)
- ◆ 「NEST」沼木教室での自然散策や農業体験
- ◆ 宿泊体験活動 各種体験活動
- ◆ カウンセリング等の実施 電話相談
- ◆ 保護者面談 保護者の会(ホッとLine「NEST」)
- ◆ 相談員による学校訪問 家庭訪問 など

